加盟校の幸福度ランキングアップ《噴水編》

［宮城学院女子大学］

建学の泉

長谷部 弘　宮城学院女子大学学長

宮城学院女子大学（通称MGU）の桜ケ丘キャンパスには、大学礼拝や教職員礼拝が行われる礼拝堂の傍に小さな噴水池がある。1928年に作られて以来、学生たちの憩いの場として親しまれ、宮城学院の象徴とも言われてきた噴水池だ。初夏には新緑の若葉と木漏れ日の下で、秋には周囲の森の紅葉に彩られながら、ベンチに座って昼食を取ったり読書をしたりする学生の姿が見られる。この噴水池の奥には、初代校長であったエリザベス・R・プールボー先生の凛とした佇まいの写真がはめこまれた石碑が置かれ、「建学の泉」とも呼ばれている。

ところで、現在の桜ケ丘キャンパスは、1980年に仙台市の中心部東三番丁の旧キャンパスから移転して新たに建設されたものだ。キャンパス内にある赤レンガ壁の校舎群は見事に伝統的な雰囲気を醸し出してくれてはいるものの、小さなミッションスクールとして設立された宮城女学校以来136年間にわたって育まれてきたその歴史と伝統は、キャンパス空間という視点から見ると、1980年を境として、東三番丁キャンパス時代と桜ケ丘キャンパス時代とに見事に分断されている。

宮城女学校が設立された年である1886年という年は、奇しくも日本の本格的な産業発展の開始年、いわゆる「企業勃興」の始まった年である。創設者たちの想いの中には、この女学校で学ぶ女性たちに、「文明開化」に代わって新たに始まろうとしている発展の時代を生き抜く精神と知恵を身につけて欲しいという願いがあった。

実際、設置時の書類には、創立者達が考えた教育の目的が記されている。それはキリスト教主義の道徳にもとづき、「最良の高等普通教育」を女子に授け、「善良有智の婦人」を育てることであった。「キリスト教主義の道徳」とは、原案では「聖書の教え」と直説法で記されていたとのこと。聖書はイエス・キリストを証言する書物であり、イエスの教えの基本は十戒の趣旨である『神を畏れ、隣人を愛する』ことであるから、現在の宮城学院のスクールモットーに直結している。さらに、「最良の高等普通教育」という部分は、現代流に翻訳すると高品質のリベラルアーツ教育に相当し、「善良有智の婦人」とは、良識と知的誠実性と知恵を備えた女性のことであるから、現在宮城学院がタグ・ラインとして掲げている「愛のある知性」を身につけた女性ということになるだろう。建学時の女子教育の精神は、現在に至るまで驚くほどしっかりと受け継がれている。

伝統とは、過去の精神を引き継ぎながら、時代状況に対応しつつその姿を新たに変えていくものだ、と言われる。日本は、20世紀半ばの世界大戦と敗戦、そして占領期を経て高度経済成長を経験することにより大きく変わった。その中で、女子大学として中学校高等学校とともに教学体制の基礎を整えた宮城学院は、1980年、キャンパスを郊外の桜ケ丘へと移転した。最近分かったことだが、その際、実は冒頭に記した旧東三番丁キャンパスの噴水池は移設されなかったのである。そこで、かつての噴水池に強い想いを持つ同窓生たちが資金を集め、移転後3年を経て、現在の場所にかつての姿そのままに復元したのである。それによって新旧キャンパスの空間的断絶は接合されたわけだ。これが、建学の精神とともに宮城学院の伝統を象徴する存在の一つとしてこの「建学の泉」がとり挙げられる所以である。

現在の桜ケ丘キャンパス 建学の泉